

2011年12月20日発行

秋田大学

国際交流センターニュース 第7号

Akita University International Exchange Center News

発行者： 国立大学法人秋田大学国際交流センター 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/> 電話：(018) 889-2856 kokusai@jimu.akita-u.ac.jp

- ・黒竜江大学創立 70 周年記念式典に参加して (1)
- ・国際交流会館 B 棟完成 (1)
- ・フライブルク大学のドイツ語短期研修 (1)
- ・する・聞く・語る秋田の農業 in 西木町 (2)
- ・ケニアの日本語教育の話を書きました (2)
- ・夏の北海道旅行 (2)
- ・秋季留学生オリエンテーション (3)
- ・JASSO 外国人学生のための進学説明会参加 (3)
- ・カザフスタンの協定校から学長が来校 (3)
- ・留学生と地域住民を結んだバーベキューパーティー (3)
- ・スタッフ紹介 7 小野丈、董小凡 (3)
- ・コペンハーゲンで日本留学フェアに参加 (4)
- ・第 2 回日中大学フェア & フォーラム (4)
- ・ビクトリア大学での英語研修 (4)
- ・専任教員からひとこと 西田文信 (4)

● 黒竜江大学創立 70 周年記念式典に参加して

● 記念式典に参加して……………榎本克彦

さる9月22日、黒竜江大学創立70周年記念式典に吉村学長代行として参加してきました。21日昼ハルピンに入り、23日早朝帰国という慌ただしい日程でしたが、張政文学長表敬訪問や式典参加等の公式行事をこなしてきました。黒竜江大学は、本学にとって最初の海外協定校で、1988年に大学間協定を締結しています。また張学長との会談において知ったことですが、黒竜江大学にとっても本学は最初の日本の協定校とのことでした。実際に、見学した大学歴史博物館では本学が当時贈った記念メダルが展示してあり、23年間にわたる交流の歴史を感じました。

また日程の厳しい中、吉永教授のご尽力でハルピン工業大学も訪問し情報交換をすることができました。今回訪問した両大学には、本学留学経験者が大学中堅スタッフとして活躍しており、本学が海外の人材育成にも寄与していることを誇らしく思った次第です。(ENOMOTO, Katsuhiko — 国際交流センター長, 医学系研究科 医学専攻 分子病態学・腫瘍病態学講座)

● 中国の大学の式典と文化祭から……………吉永慎二郎

この9月22日に協定校世話人を務める黒竜江大学の70周年記念式典及びその後の文化祭にも参列し、「有中国特色的教育」即ち中国的特色のある教育の一面を目の当たりに参観してきました。



体育館での70周年記念式典では黒竜江大学党委員会書記が主持人として式典を主宰し、同大学の国防教育学院の軍楽隊の吹奏楽の演奏が式典を盛り上げ、熱気がありました。翌23日はグラウンドで学生の「文化演出」の催しに招かれました(写真前列右から2人目が当日の筆者)。校歌の合唱に続いて各種の集団舞踏や合唱・独唱等の演目があり、中でも「永遠に党とともに」という党を謳う歌が2回登場していました。中国的特色のある教育の現場に立ち会う興味深い経験でした。(YOSHINAGA, Shinjiro — 教育文化学部日本・アジア文化講座)

● フライブルク大学のドイツ語短期研修

8月8日から30日まで、教育文化学部の4名の学生が南ドイツにあるフライブルク大学を訪ねました。フライブルク大学は毎年8月に日本人学生向けのドイツ語短期研修を開いており、今年は132名の学生が参加しました。このプログラムは日本人の初級ドイツ語学習者に対し、ドイツ語を母語とする教員が、少人数のクラスで集中ドイツ語講義をします。1日に2コマのドイツ語授業のほか、週に2回、日本語でドイツの政治、歴史、文化などについての講義も行います。また、フライブルク市と「黒い森」の周辺を楽しみ、スイスとフランスへの遠足と週末旅行も実施します。参加した学生たちは、ドイツ語を勉強し、ドイツの環境を楽しみ、毎日忙しい日を過ごしました。(アスマン・シュテファニー: ASSMANN, Stephanie — 教育文化学部欧米文化講座)



● 国際交流会館 B 棟完成

外国人留学生と外国人研究者のための居住施設「国際交流会館」が増築され、7月6日、開所式を行いました。これまでの単身室15室、夫婦室3室、家族室2室の計20室でしたが、新たに単身室18室が増築され、B棟と呼ぶことになりました。

開所式では榎本国際交流センター長が「留学生のための施設が整備され、うれしく思う。今後も留学しやすい環境づくりを進めていきたい」と挨拶。続いてB棟に入居した留学生のボルド・アリウンツェンゲルさん(モンゴル, 工学資源学部4年)が「施設・設備とも整っていて、留学生にとって大変生活しやすい環境。寮に入ることで勉強に集中できると思う」と話しました。見学者からは「家電製品も揃っていて、暮らしやすそう」「ここなら自分も住みたい」などの感想が聞かれました。(国際交流課)

○ する・聞く・語る秋田の農業 in 西木町

● 3年目の農家民泊.....

今年も西木町で、農業体験ツアー（10月15日・16日）と収穫感謝祭ツアー（11月12日）を実施しました（主催：秋田地域留学生等交流推進会議，企画・運営：秋田大学国際交流センター）。10月の1泊のツアーには、県内高等教育機関4校から留学生・日本人学生・教職員など47名が参加し、7軒の農家で農作業と宿泊を体験しました。11月の収穫感謝祭ツアーにも再度同じメンバーが集まり、料理とアルバム作成、秋田の農業への提言といった活動を行いました。（牲川波都季：SEGAWA, Hazuki—国際交流センター）

● My Agricultural Experience In Akita.....

Hello, my name is Shani Leibovitch, and I am an exchange student from Israel, studying in Akita University. I would like to express my gratitude for taking a part in this wonderful project of "Do-Listen-Talk! Agriculture." I am happy I learned and experienced the life of a farmer in Akita, even for a short while.

I was happy to meet the farmers, who were very kind and generous. I especially enjoyed working and talking with them. My group harvested spinach, which was a very nostalgic experience for me, since when I was much younger, I used to harvest and experience cultivation of vegetables in another school activity in my home country.

The farm stay was very educational to me, and I learned a lot of new things, especially how to prepare real Japanese food. It was a lot of fun, and taught me a lot about the farmers as individual people and what it is to be a farmer in Akita.（レイボヴィッチ・シャニー：LEIBOVITCH, Shani—教育文化学部特別聴講学生）



○ ケニアの日本語教育の話をお聞きしました

6月24日、ケニヤッタ大学外国語学部の日本語講師キルリ・ガシエ氏による講演会が開かれ、20名ほどの参加者がありました。ケニアの教育制度のお話から日本語教育の実態、ケニヤッタ大学の概要などについての幅広いお話でした。ケニアは学歴社会で、日本語という「珍しい」言語を勉強したことを履歴書に書けると有利になるので日本語を学ぶ学生が多い、という点など、興味深いお話を大変なめらかな日本語で話してくださいました。学生からも活発な質問が出ていました。（宮本律子：MIYAMOTO, Ritsuko—副センター長, 教育文化学部国際コミュニケーション講座）

● 農家民宿の感想.....

感謝祭が終わった後、佐藤さんにさようならを言いたくないほど別れ惜しかったです。農家民宿は米農家の佐藤家に泊まりました。佐藤さんが各種の機器を説明してくれた時、ちゃんと聞き取れなかったが丹精こめて育てた美味しいお米を人々に食べさせたいという気持ちは彼の笑顔から伝わってきました。私たちもお米の包装を手伝いました。袋を結ぶような「見れば簡単じゃん」と思うような仕事も、実際何度も練習しないと上手に出来ないことがわかりました。ずっと美味しいと聞いていたきりたんぼも、お母さんの指導で自分で作ったり焼いたりしました。みんな協力して拾ってお土産としてもらった粟もすごく美味しかったです。

たった2日間の農家民宿でみんな家族になりました。これから会えないかもしれませんが、この時の楽しさと家族のようなぬくもりは永遠に心にとどまるだろうと思います。（蔡佳凝：サイ・カギョウ, CAI, Jianing—教育文化学部日本語・日本文化研修留学生）



○ 夏の北海道旅行

8月6日から8日の3日間、私は秋田大学が主催した留学生の北海道見学旅行に参加しました。私は今まで北海道に行った事がないので、行く前にもすごく楽しみにしていました。北海道には、いつも涼しいというイメージがあり、たとえ夏だとしても同じく涼しさを感じれると思ったが、この3日間で、思えないくらい暑かった。ガイドさんの話によると、その時の暑さは今まででなかったような暑さでした。けれど、暑さと伴い天気も晴れ続けていた。私たちにとって逆に幸運だと思えます。

見学旅行の中で一番好きなのはやはり函館の夜景でした。日本の三大夜景は台湾で「百万夜景」とも呼ばれています。なぜなら、このような素晴らしい景色には、何百万を払っても手に入れることが難しいという。私はその百万夜景を実際に目に焼き付けたことがとても嬉しくて、一生の思い出になると思っていました。（郭庭貽：カク・テイイ, GUO, Tingyi—教育文化学部特別聴講学生）



○ 秋季留学生オリエンテーション

10月3日午後、新しい留学生を集めてオリエンテーションが開催されました。宮本副センター長からの歓迎の言葉の後、西田から本学の基本的情報や在留手続について、その後秋田東警察署・秋田県国際交流協会より生活上の諸注意と、ホストファミリーに関してそれぞれ日本語・英語の通訳を交えて説明を受けました。キャンパスツアーを経て最後に大会館にて歓迎会が催されました。チューターの日本人学生やセンター教職員も参加し楽しいひと時を過ごしました。学生達にとってはネットワーク作りの一助となったようです。

(西田文信：NISHIDA, Fuminobu — 国際交流センター)

○ JASSO 外国人学生のための進学説明会参加

7月9日に大阪国際会議場で、7月10日に東京・池袋サンシャインシティ文化会館で、外国人学生のための進学説明会が開催されました。大阪会場には、工学資源学研究科の内田隆教授、入試課の田村悟総括主査、国際交流センター市嶋が、東京会場には、教育文化学部の篠原秀一教授、工学資源学研究科の村岡幹夫教授、国際交流課の加藤浩貴主査が参加しました。秋田大学のブースには、大阪、東京会場あわせて、130名の訪問者があり、参加者の秋田大学への関心の高さがうかがえました。主に、秋田大学に進学実績がある日本語学校の学生や職員が多く訪れ、留学生数の増加の目標を掲げる秋田大学の戦略として、日本語学校へのPRが重要になるとの印象を持ちました。

(市嶋典子：ICHISHIMA, Noriko — 国際交流センター)

○ カザフスタンの協定校から学長が来校

10月11日から14日にかけて、東カザフスタン工科大学テミルベコフ学長一行が秋田大学を訪問しました。同大学は、カザフスタンの北東部、鉱業の中心地オスケメン市に位置する、資源開発分野で有名な大学です。鉱山学部を基礎に発展した秋田大学と共通する点も多く、今後、両大学の間で活発な交流活動が期待されます。

カザフスタンは、四方を陸地に囲まれた海のない国で、日本海への憧れは相当のものでした。公式行事を終えた夕方、男鹿半島の浜辺で、まるで小学生のように貝殻集めに没頭する姿は感動的でした。石油、ウランに代表される資源大国であるカザフスタンとの大学間交流は、わが国の資源外交にも寄与するものと期待されます。

(高橋嘉行：TAKAHASHI, Yoshiyuki — 国際交流推進役)

○ 留学生と地域住民を結んだバーベキューパーティー

秋田大学国際交流センターの主催で、7月27日(水)に留学生と地域住民たちが参加したバーベキューパーティーが秋田大学国際交流会館で開催されました。今年は、秋田大学で去年の10月から約1年間、日本のことを学んでいたAUEP (Akita University Experiential Program) の終了を祝う場でもあり、例年より少し参加者が増えました。韓国をはじめ、中国、台湾、フランス、ケニア、アメリカ、フィンランドなど、多様な国から来た留学生と秋田大学生、国際交流センターの職員、AUEPの担当教員、地域住民たちが集まり、楽しい一時を過ごしました。

最初は気まずい雰囲気、知り合い同士のグループに分かれ、話していましたが、おいしいバーベキューを食べながら、待ちながら、話し相手も広がっていきました。最後には地域住民と留学生が自然にペアになり、自分の国のことを紹介したり、相手の国のことを聞いたりする情報交換の場にもなりました。一所懸命に敬語を使いながら説明している留学生を見ながら、普段接している同世代の大学生ではなく、上の世代との接し方も学べる、このような行事が多くなってほしいと思います。

(金然貞：キム・ヨンジョン, KIM, Yeonjeong — 教育学研究科教員研修留学生)



○ 国際交流センター・スタッフ紹介 7

● 小野丈……………ONO, Jo

10月に秋田高専から転勤し、国際資源学教育研究センターの英語による資源学フィールドサーキットSSプログラムを担当しました。私は教育文化学部の古い先輩になり、教育学部中・高課程社会専攻の卒業です。よろしく!!

● 董小凡……………DONG, Xiaofan

ドン・シャオファンです。10月に中国から来ました。中国では蘭州大学の国際交流室で英語の翻訳と通訳をしていました。日本へ来て、秋田大学の国際交流課で、英語の翻訳を手伝ったり、中国語を教えながら、日本語の勉強と日本文化を楽しんでいます。12月に蘭州大学に帰ります。



写真：左から董, 小野

○ コペンハーゲンで日本留学フェアに参加

欧州における高等教育機関の国際交流担当者の国際会議である EAIE (European Association for International Education) の年次総会が9月13日から16日にかけてコペンハーゲンで開催され、宮本副センター長と西田が参加して来ました。各国からの参加者に本学に関する情報提供を行うとともに、本学と各国の大学等とのネットワークづくりの推進を目的として今回参加しました。

協定校であるフライベルグ大学、トウェンテ大学、ケミ・トルニオ応用科学大学の教職員と研究者交流、学生交換に関して議論を進めました。またグリフィス大学、ポハン工科大学及びボツワナ大学の担当者とは今後の国際交流に関して協議しました。今回の大会参加を通して、欧米やアジアの国々が高等教育における戦略化を積極的に押し進めていることが実感できました。



写真：ケミ・トルニオ大学の教職員と宮本副センター長

(西田文信：NISHIDA, Fuminobu—国際交流センター)

○ 第2回日中大学フェア&フォーラム

10月9日から11日の3日間にわたり池袋で開催された日中大学フェア&フォーラムに秋田大学も参加しました。これは日本と中国から約100校ほどの大学が一堂に集まり、教育研究・産学連携・人材育成のテーマの下、展示、相談・交流、イベントの各コーナーでそれぞれの大学の特色アピールを通じて交流するもので、今回が第2回目の開催となります。当日は中川正春文部科学大臣、程永華中国特命全権大使も会場にお越しになり、全体としては盛大なイベントとなりました。



大学紹介のコーナーでは、本センターの西田先生が中国語によりアピールを行い好評を得ていました。また、最終日のフォーラムは会場を丸の内に移し、日中双方の大学の学長・副学長等によるパネルディスカッションが行われ、産学連携促進と基礎研究の未来のテーマでは本学の吉村学長もパネラーとして参加しました。

(笹村和雄：SASAMURA, Kazuo—国際交流課長)

○ ビクトリア大学での英語研修

9月5日から10月2日の1か月間、井口悦美・佐藤滯(教育文化学部2年)、市橋通子・高橋春菜(同1年)、石黒哲史(医学部1年)の5名がカナダ、ビクトリア大学での英語研修に参加しました。

プログラムは1週間単位で、平日のうち4日間はビクトリア大学で講義を受講し、残りの1日は、ビクトリアの観光やカヤック等のアクティビティに参加しました。大学の講義の内容は、韓国やブラジルから来た他の生徒とのディスカッションを通して文法や語彙を身に着けるというものでした。カナダの文化はもちろんのこと、カナダ以外の国の文化を多国籍の生徒との交流から学ぶことができ勉強になりました。ビクトリアは各家庭が庭に手間をかけるなど外観を大切にする風潮があり、大変きれいな街並みでした。また気候は日本の秋口のような過ごしやすいものでした。非常に良い環境の中、研修に参加し、様々な人と関わり、ホームステイを楽しむことができ、かけがえのない経験になりました。



(石黒哲史：ISHIGURO, Tetsushi—医学部医学科1年)

○ 専任教員からひとこと 西田文信

私はここ6年程、マンデカという言語を研究するためにブータン王国を訪れている。ブータンでは九州ほどの国土に19もの言語が話されている。毎年村に入り現地のお宅に住み込んでフィールドワークをしているが、言語調査以外にも、法要に参加したり、牛の世話をしたり、その他の知識も着実に増えてきている。肝心の言語の方といえば、多少なりとも文法の輪郭が見えてきたとはいえ、知れば知るほど分からなくなってきている。ブータン王国諸言語の学術的価値は極めて高いにもかかわらず、多くの言語がいまや急速に消滅に向かっており、生きた言語を有効に研究できる残余期間はごく限られている。今後も毎年足を運んで言語とそれ以外のことを教えてもらおうと思っている。



(NISHIDA, Fuminobu—国際交流センター)

秋田大学の留学生数 2011年度後期

▶ 学部生：91名 ▶ 大学院生：38名 ▶ 交換留学生・研究生等：46名 計：175名